



中野P・たかちゃん @ 坂主字音の



国際交流基金・日本語パートナーズ / インドネシア レポート

★2016年5月号

9 か月はあっという間にすぎて、インドネシア生活もあと残り 2 日という日。それは私にとって一生忘れられない日になりました。

朝、学校へあいさつにいきました。校長先生に挨拶すると、

「あ、今日プレゼントを渡そうと思って用意していたのに、家の玄関に忘れてきちゃったわ」と校長先生。そのときセルラスの「再会を誓って」の場面が思い出され、「先生、忘れ物したほうがいいですよ。今度私はそのプレゼントをもらいにまたインドネシアに来ることができますから。私たちがまた会えるようにとっておいてください」とお話ししました。

帰ってコス（アパート）の引き払いの手続きをし、コスの仲良くなったお手伝いさんと写真を取り、「みんな本当にありがとう、また絶対に帰ってくるからね。元気でね」と言葉を交わしました。「再会を誓って」の場面は、韓国でも、メヒコでもありましたが、インドネシアでもなんども出てきて、どこの国でもある場面なのだと改めて思いました。

また別れを惜しみ、再会を願う人の気持ちはどこの国の人も同じなのだと感じました。

5月みんなと最後の思い出作り☆

日本語クラブの学生とじゃらんじゃらん（旅行）しました。

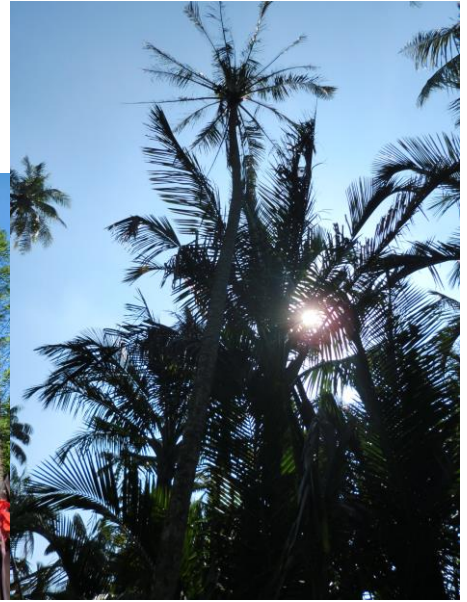
SMKN20 の日本語クラブの学生と MONAS へ。



MONAS=Monumen National インドネシアの首都ジャカルタの中央ジャカルタ地区にある公園「ムルデカ広場」の中心部のある国家独立記念塔の名称です。

上は展望台で下はインドネシアが独立するまでの歴史が学べる展示コーナーなどがあります。東京でいう東京タワーにあたる観光スポットです。

SMKN37 の日本語クラブの学生と BOGOR の植物公園へ。



この植物公園は世界一クサイ花「ラフレシア」があることで有名です。
「よし！ラフレシアを見に行こう！」と意気込んで歩き出した私たちでしたが、公園内が広すぎて、なかなかラフレシアのある場所までたどり着けず、2時間歩き回って「チャペー（疲れた〜）」ということで、結局みんなでケンタッキーでご飯を食べて帰りました。（笑）



←運がよければこんなラフレシアが見られるかもしれません。

公園を散歩して、ご飯を食べて帰っただけかもしれませんが、この日はとても楽しい一日となりました。

公園を歩きながら、

私：「インドネシアの木はみんな背が高いね。日本にはこんなにたくさんココナツの木はないし、マンゴーの木もないよ」

生徒「え？ココナツの木もマンゴーの木もないの？！」

生徒「今、日本の季節は何？もう夏？」

生徒「あ、見て！結婚式の飾りがある！今日この公園で結婚式やってるんだね」

私「え？公園で結婚式？」

・・・こんなことを話したり、ケンタッキーを食べながら

私「インドネシアのケンタッキーとかマクドナルドでごはんが売っていて最初びっくりしたの」

生徒「え〜？日本ではケンタッキーでごはん売ってないの？ごはん（お米）食べないで何を食べるの？インドネシア人はごはんを食べないと食事したことにならないよ」

・・・駅のホームでは

生徒「すごい人が並んでる。日本でも切符を買うのに並ぶ？」

などなど、たわいもない会話をしながら生徒と過ごす時間がとても楽しく忘れられない思い出になりました。

☆おまけ☆

お別れの言葉

なんていったらいいか迷うお別れの言葉。。

最初は「Terima kasih banyak!」にいろんな気持ちを込めて挨拶していたけれど、

返ってくる相手の言葉を聞いていると「Jangan lupa kami. 私たちのこと忘れないでね」

「Tetap punya siratulami. これからもよろしく（関係を続けよう）」

「Mohon maaf kalau ada kesalahan dan kekerangannya いろいろ失礼や至らないことがあったかと思いますが」
こんなメッセージが多かったです。

「お、なるほどこういえばいいのか!」と、そのあとからこれを真似して言うようになりました。

人の数だけ言葉があって、たくさんの人に出会えば出会うほど、自分の言葉や表現力が増えていきますね。

☆最後に☆

9か月間の日本語パートナーズの活動はあっという間でした。

その間、本当に多くのあたたかいインドネシアの人のところに触れて、私自身の心も豊かになった気がします。

セルサスの栄治がメヒコでまるはだかの自分でホストファミリーと向き合ったのと同じように、私もインドネシアでは私がどんな人なのか、過去も今もまったく知らない人と関係を築くところから始まりました。

幸せなことに、出会う人、出会う人、みんな私に対して真摯に向き合ってくれ、私のつたないインドネシア語も一生懸命わかろうとしてくれました。

インドネシアの人はコミュニケーション力が本当に高いなと思います。

また「人を思いやるとはどういうことか」をいろいろな人に教えていただきました。

病気の時、病院まで一緒に行ってくれたり、「お見舞いにいけなくてごめんね」とメールをくれたり、

「明日は一人なの？家で一人でいるくらいなら私の家にごはん食べに来なさい」と誘ってくれたり、

何か困ってメールをするとすぐに返信をくれたり、何気ない会話の中で「今度〇〇へ行こうと思うんだけど、

どうやっていったらいいかな？」という、次の日覚えていてくれて行き方を教えてくれたり、

毎日、「今日は元気？」と声をかけてくれたり。

今まで「思いやりを持ちましょう」と学校でもならってきましたが、具体的にどうすることが思いやりを持つことなのか、正直わかってなかったと思いました。

これからは、今までお世話になった人たちへ恩返りする気持ちで、教えていただいた「思いやり」を実践していきたいです。

9か月間の日本語アシスタントの任期は終わりますが、これからもインドネシアと日本が良きパートナーでいられるよう、お互いの良さを伝えていけたらいいなと思います。

そしていつかインドネシアと日本のホームステイ交流を実現させたいと思います！

最後まで私のインドネシアレポートを読んでもらったみなさん、

私が感じたことを素直に書かせていただいたので、

あくまでも個人の感想でしかないところを

「いつもレポート楽しみにしています」と言ってくれる方もいて、

本当に感謝しています。

私自身、自分の経験や考えを振り返るいい機会を与えていただきました。

本当にありがとうございました。

